

# 2022年3月期第3四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社  
取締役 専務執行役員 CFO

2022年1月27日



本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

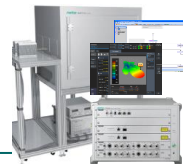
# 目次

1. 事業概要
2. 2022年3月期第3四半期 連結決算概要
3. 2022年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

# 1. 事業概要

## 通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ▶ モバイル市場 : 5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 基地局建設保守、電子部品、無線設備

## PQA事業

食の安全・安心



- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

## その他



- ▶ 環境計測
- ▶ センシング & デバイス

### (セグメント別売上比率)

2021年3月期 実績 (連結) : 1,059億円

通信計測 71%			PQA 20%	その他 9%
モバイル 59%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 16%		

2022年3月期 (4-12月) 実績 (連結) : 759億円

通信計測 71%			PQA 21%	その他 8%
モバイル 57%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 17%		

### (通信計測事業 地域別売上比率)

2021年3月期 実績

日本 18%	アジア他 47%	米州 23%	EMEA 12%
--------	----------	--------	----------

2022年3月期 (4-12月) 実績

日本 15%	アジア他 46%	米州 25%	EMEA 14%
--------	----------	--------	----------

通信計測事業 : 旧T&M事業    PQA : Products Quality Assurance

## 2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比減収減益も通期予想に対する受注進捗は計画通り

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	798	832	34	4%
売上高	766	759	△7	△1%
営業利益	141	109	△32	△22%
税引前利益	139	111	△28	△20%
当期利益	105	82	△23	△22%
当期包括利益	105	94	△11	△10%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入 (前年同期比増減額を除く)

## 2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測：5G開発需要は堅調に推移。半導体不足による売上への影響は継続

▶ PQA：新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域での売上が回復し、前年同期比増収

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	544	535	△ 9	△ 2%
	営業利益	125	103	△ 22	△ 18%
PQA	売上高	153	161	8	5%
	営業利益	10	9	△ 1	△ 6%
その他	売上高	68	62	△ 6	△ 8%
	営業利益	11	4	△ 7	△ 61%
調整額	営業利益	△ 6	△ 7	△ 1	-
合計	売上高	766	759	△ 7	△ 1%
	営業利益	141	109	△ 32	△ 22%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

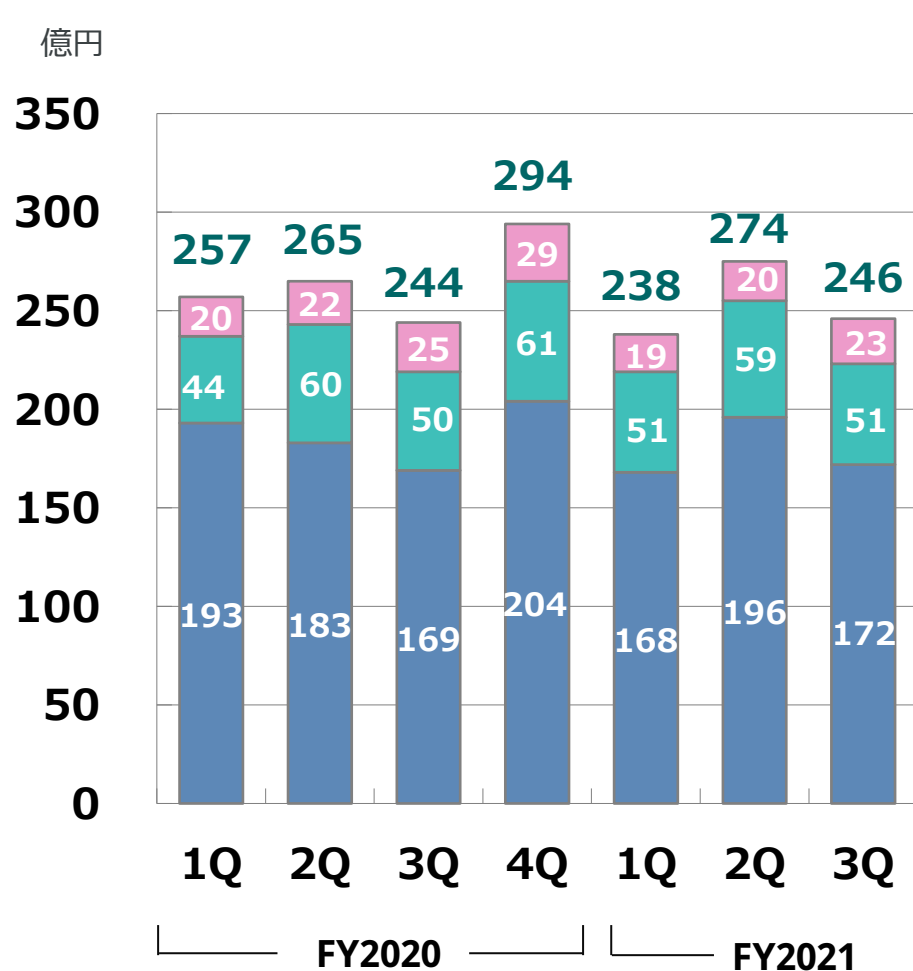
(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

通信計測事業：旧T&M事業

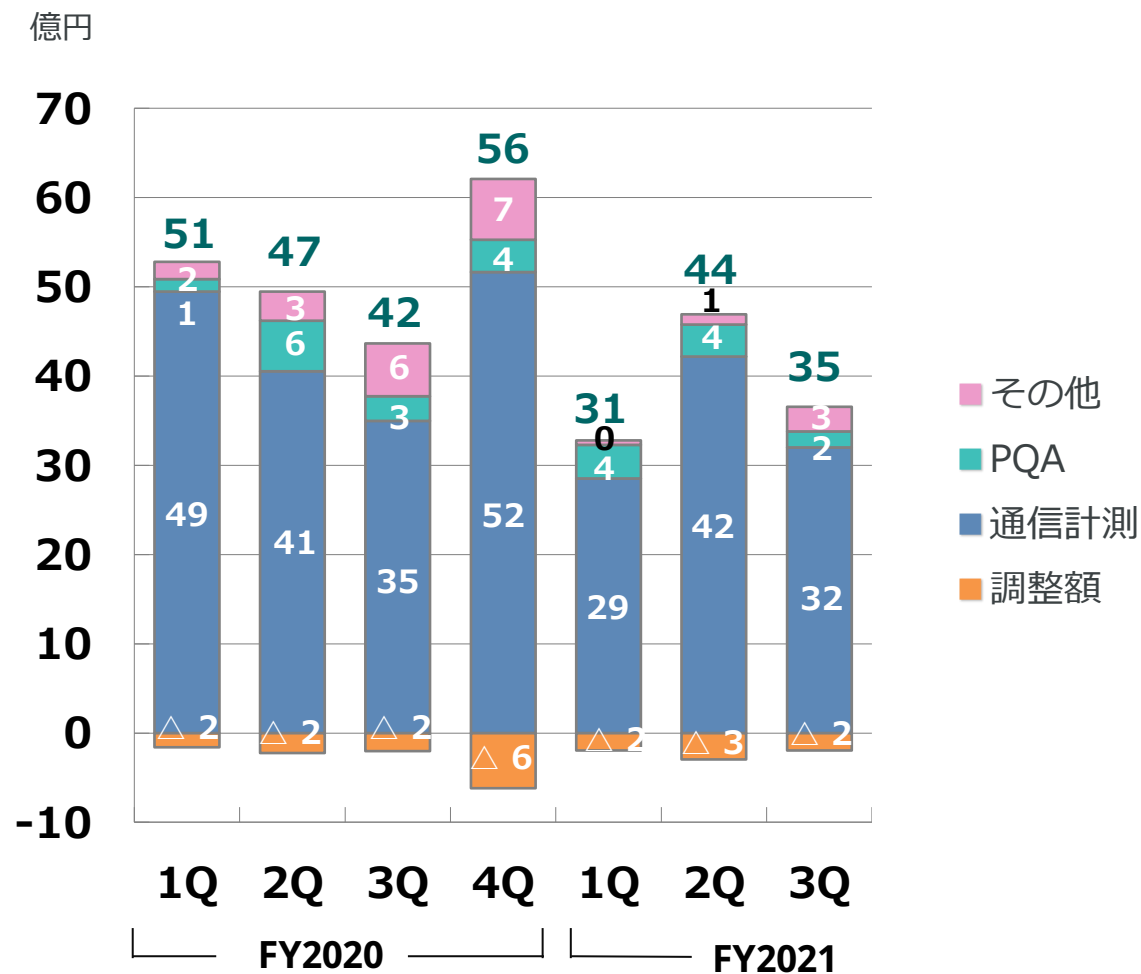
PQA：Products Quality Assurance

## 2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 3Q(10-12月)営業利益率：連結 14%，通信計測 19%，PQA 4%



売上高



営業利益

(注) 値はそれぞれで四捨五入

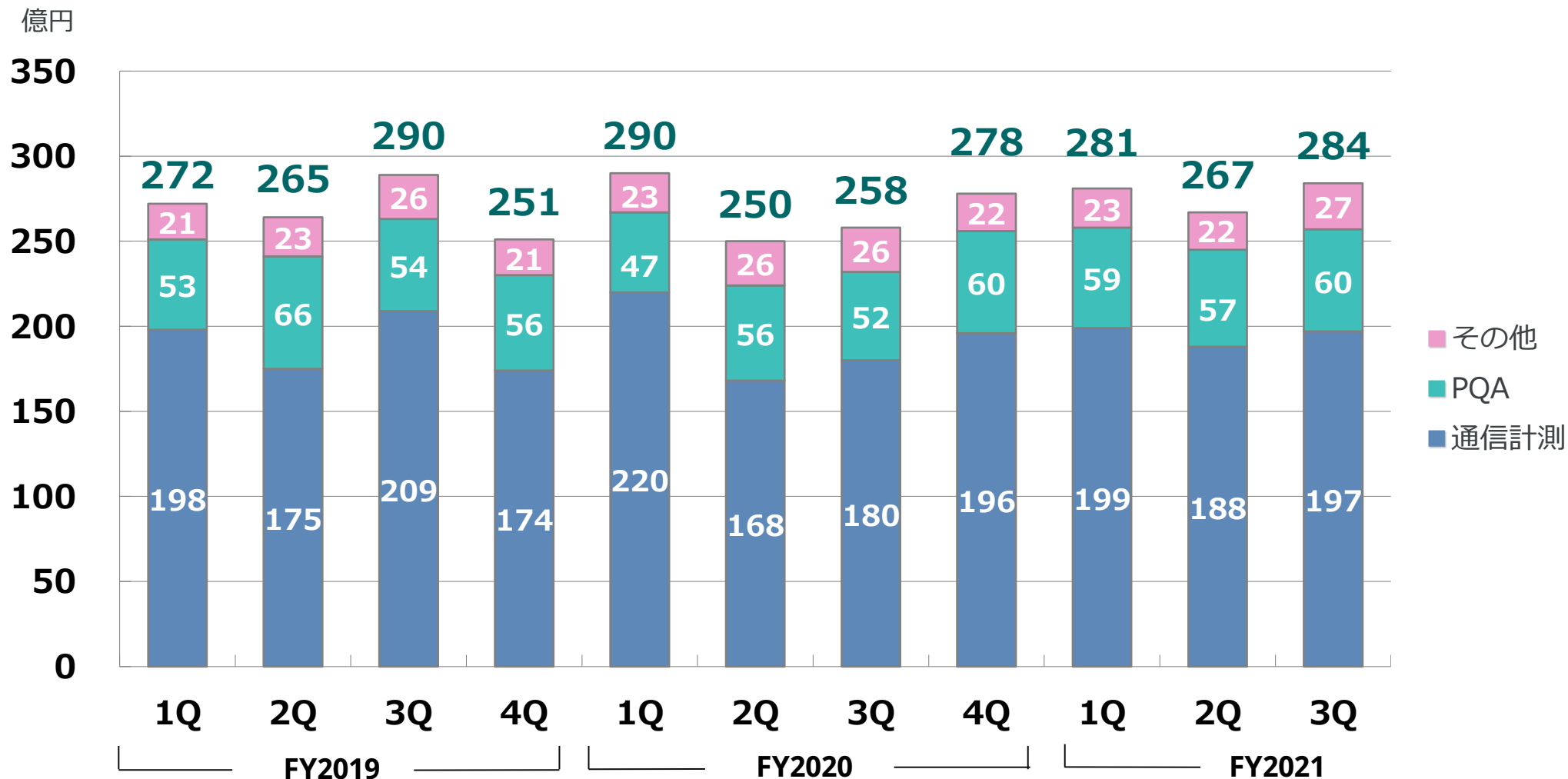
セグメント 2022年3月期（4-12月）の状況	
<p>➡ 通信計測：5G商用化スケジュールおよびデータセンター高速化が順調に進展。さらに6Gの基礎開発需要が立ち上がる</p>	
モバイル	5G開発の需要が順調に推移
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が順調に推移
アジア他・日本	5G商用化に向けた投資は堅調だが、スマホ製造の一部の短納期顧客で半導体不足の影響あり
アメリカ	電波干渉問題解決後のSub6GHz（Cバンド）のサービス本格化待ち
<p>➡ PQA：アジアやアメリカ等、新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域の需要が回復</p>	



## 2-5. 受注高推移

▶ 通信計測：前年同期比 10%増

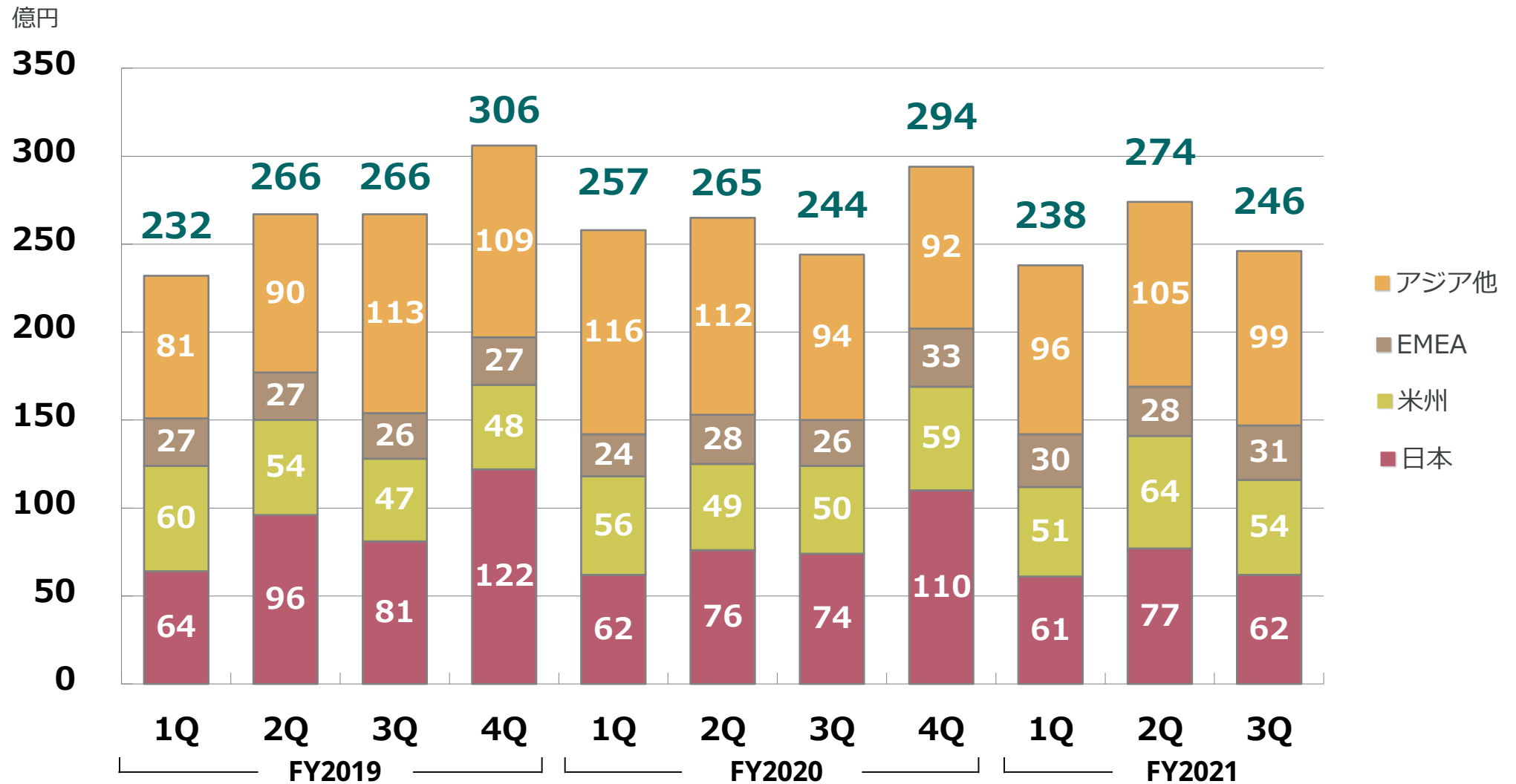
▶ PQA：前年同期比 14%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

## 2-6. 地域別売上高推移

▶ アジアの5G関連の需要は引き続き堅調



(注) 値はそれぞれで四捨五入

## 2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率20.3%

### FY2021 (4-12月)

- ① 営業CF : 154億円
- ② 投資CF : △ 38億円
- ③ 財務CF : △ 118億円

### フリーキャッシュフロー

(① + ②) : 116億円

### 現金同等物期末残高

504億円

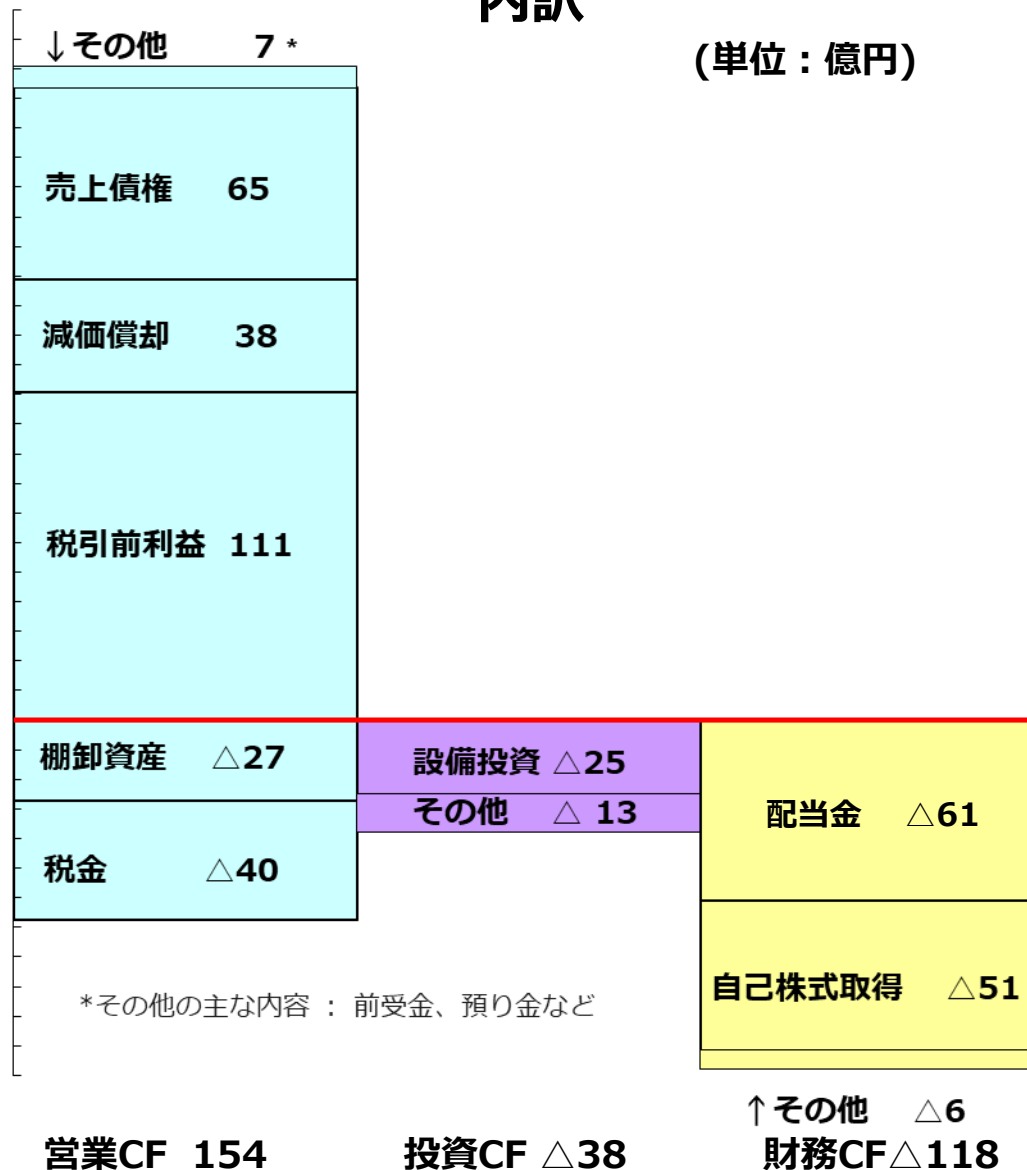
### 有利子負債高

65億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

### 内訳

(単位 : 億円)



### 3. 2022年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 2021年4月27日に公表した通期業績予想を下記のとおり修正  
 配当は、期初計画どおり1株当たり年間40円を予定（期末配当:20円）

（単位：億円）

		2021/3期	2022/3期			
		前期実績	通期予想		前期比	
			4/27発表	1/27発表	増減額	増減率(%)
売上高		1,059	1,140	1,100	41	4%
営業利益		197	205	175	△ 22	△ 11%
税引前利益		198	205	175	△ 23	△ 12%
当期利益		161	162	140	△ 21	△ 13%
T&M	売上高	748	820	770	22	3%
	営業利益	177	185	160	△ 17	△ 10%
PQA	売上高	214	230	226	12	6%
	営業利益	13	18	13	0	△ 3%
その他	売上高	97	90	104	7	7%
	営業利益	18	12	13	△ 5	△ 28%
調整額	営業利益	△ 12	△ 10	△ 11	1	-

（参考）FY20 為替レート : 1米ドル106円、1ユーロ=123円  
 FY21 1Q~3Q為替レート : 1米ドル111円、1ユーロ=131円  
 FY21 4Q 想定為替レート : 同上

（注） その他事業には2022年1月4日に連結子会社化した高砂製作所の第4四半期の業績を含んでいます。

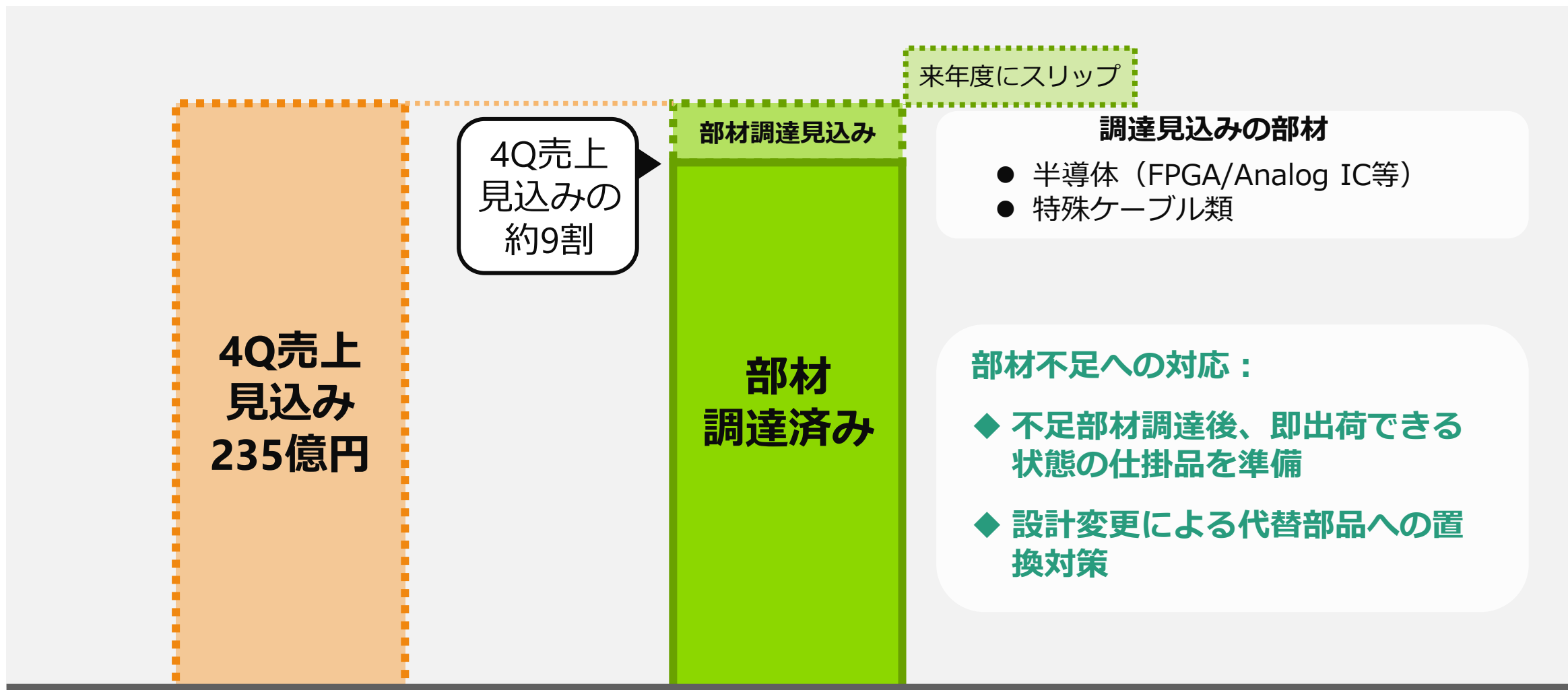
（注） 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

# 4. 当社の取り組みについて

濱田 宏一

アンリツ株式会社  
代表取締役 社長

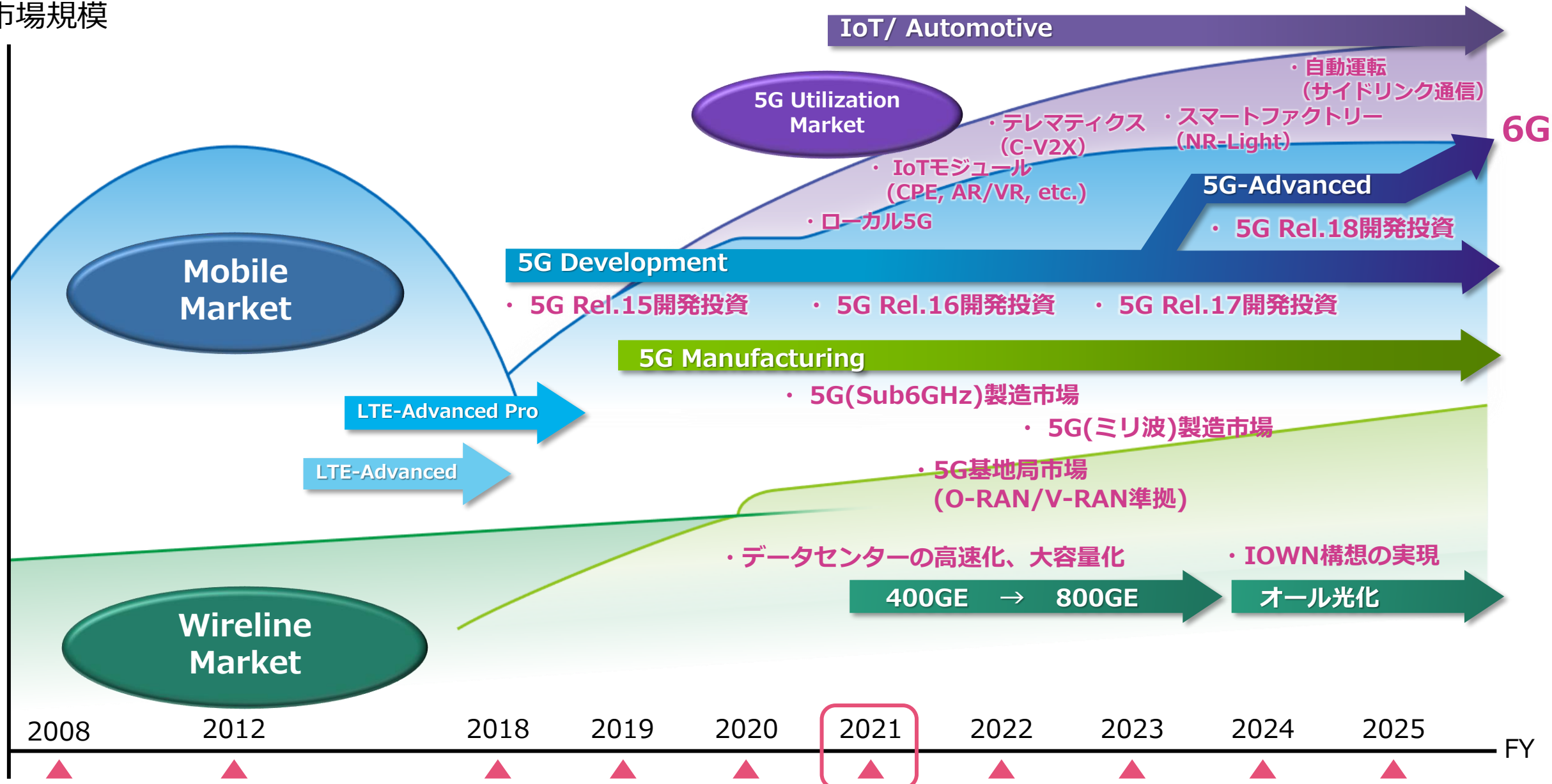
## 通信計測 部材調達状況



1月説明会時点

# 4-2. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



(CPE: Customer Premises Equipment、顧客構内設備)

# 4-3. 米国Cバンド需要の状況

## 1. 基地局建設保守需要

バンド内の電波干渉問題と、航空機の高度計向け電波との干渉問題の解決のため、1か月以上の遅延が発生したが、空港周辺を除いて5Gサービスを開始

## 2. 端末開発需要

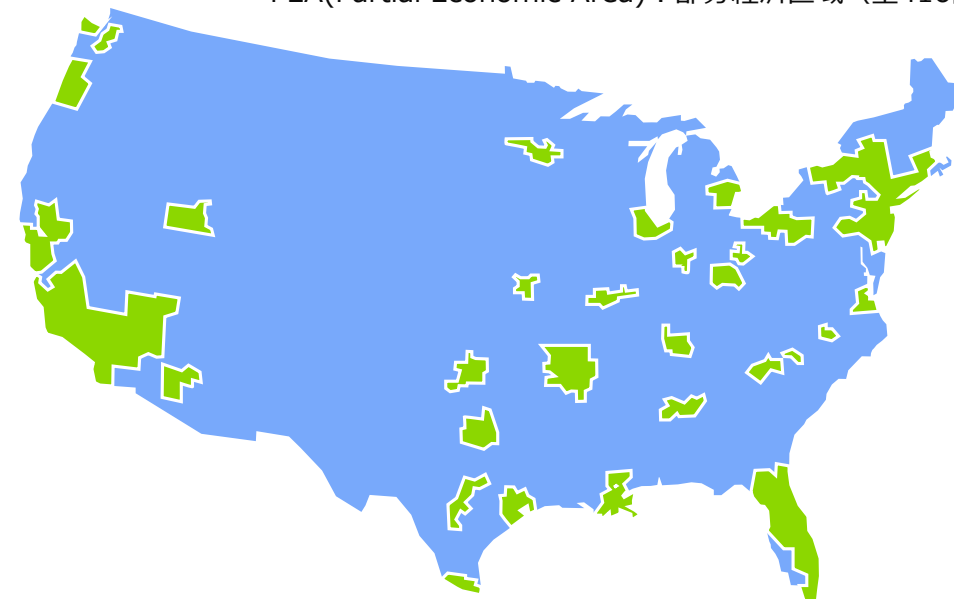
米国、韓国、日本のスマホベンダーからの需要は堅調

## 3. キャリアの受入試験需要

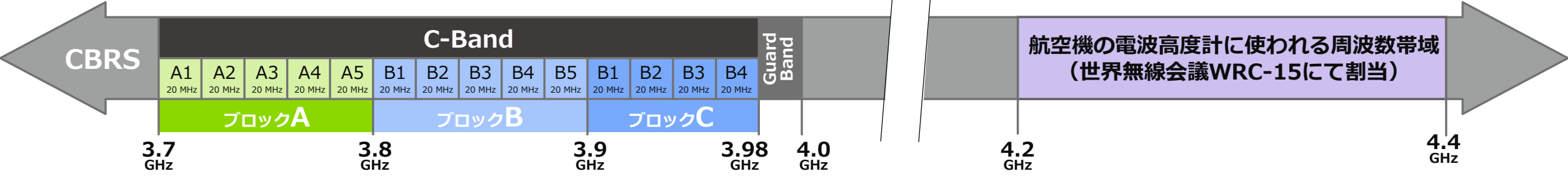
キャリア、テストハウス、スマホベンダーからの需要は堅調

- Phase 1 : 46PEAs & 周波数ブロックA  
2021年末までに周波数開放
- Phase 2 : 残りのPEAs 及び 周波数ブロックB & C  
2023年末までに周波数開放

\*PEA(Partial Economic Area) : 部分経済区域 (全416区域)



周波数ブロックAの  
ベライゾンとAT&Tの割合は6:4



(CBRS: Citizens Broadband Radio Service、市民ブロードバンド無線サービス)

出所：図は一般公開情報を参考に当社作成  
地図は概略を示す



# 4-4. GLP2023重点分野 進捗状況



AK Radio Design

5G LABの開設

**AK Radio Design社**  
ローカル5G案件を受注

ローカル5G

NEC  
ネットズエスアイ  
と業務提携

モニタリング

EV、電池

**高砂製作所**

高砂製作所

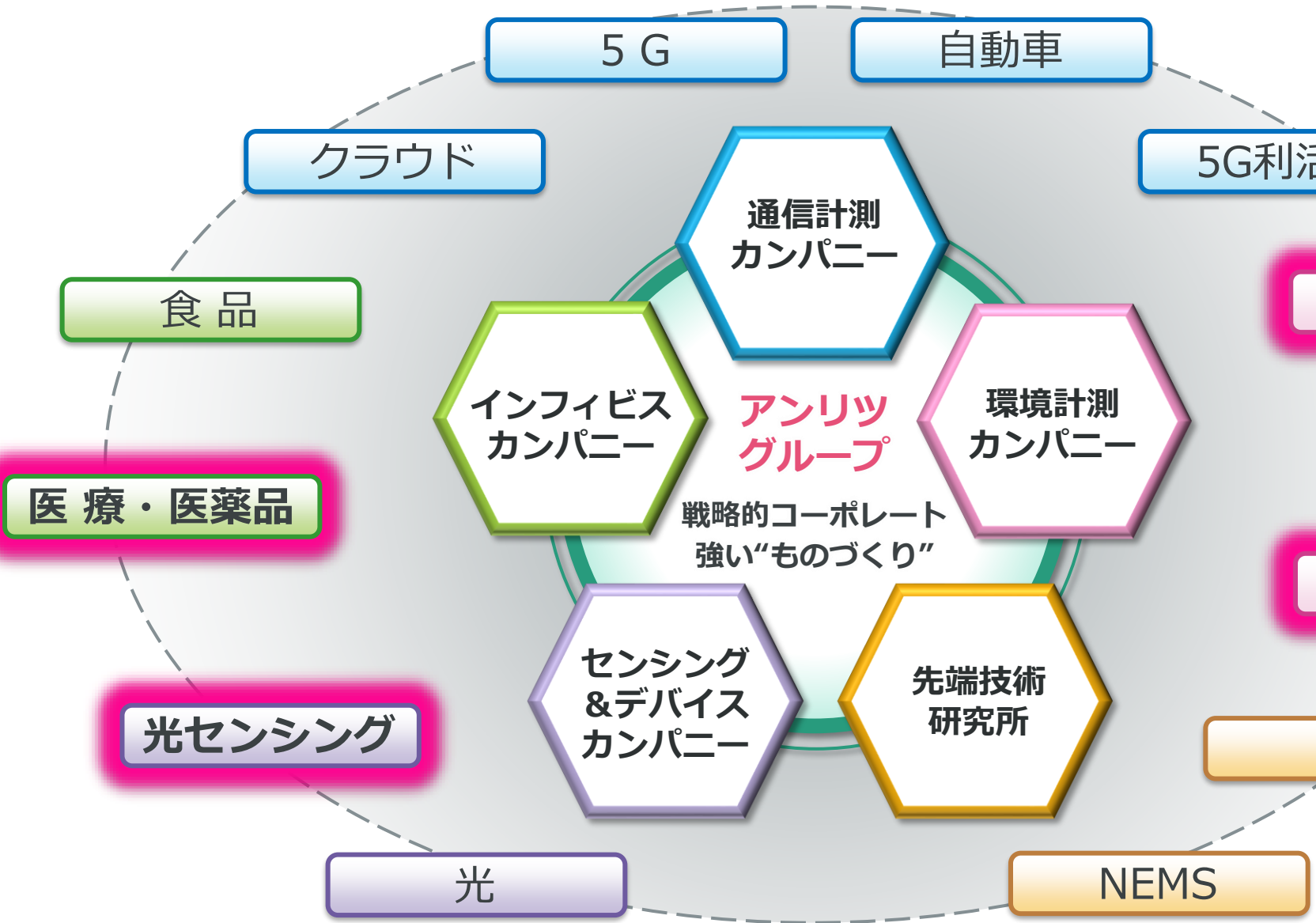
**2022年1月4日**  
M&A完了

6G

NEMS

\*EV: Electric Vehicle

\*NEMS: Nano Electro Mechanical Systems



医療・医薬品

光センシング

センシング  
&デバイス  
カンパニー

先端技術  
研究所

環境計測  
カンパニー

アンリツ  
グループ

戦略的コーポレート  
強い“ものづくり”

インフィビス  
カンパニー

通信計測  
カンパニー

クラウド

食品

5G

自動車

5G利活用

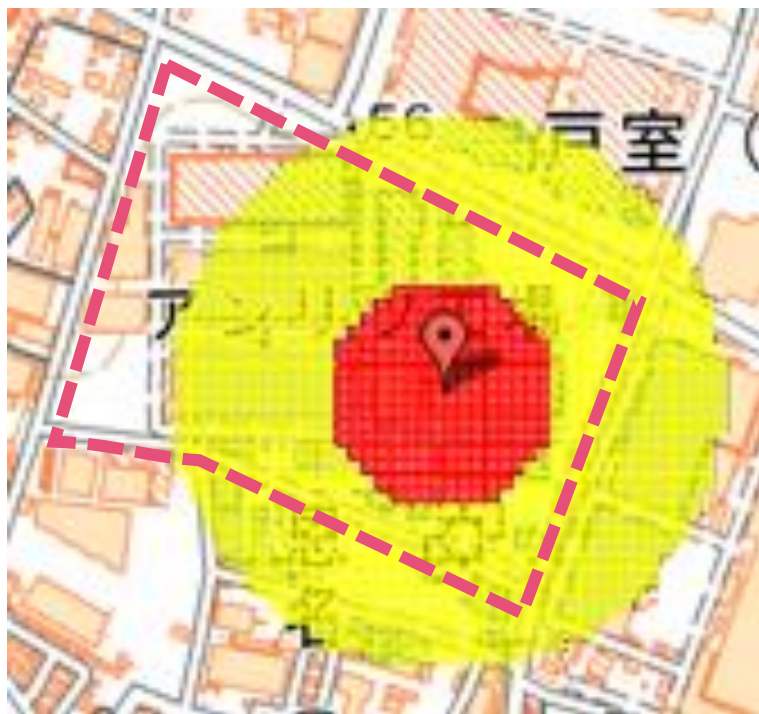
光

\*インフィビスカンパニー：PQA事業の推進

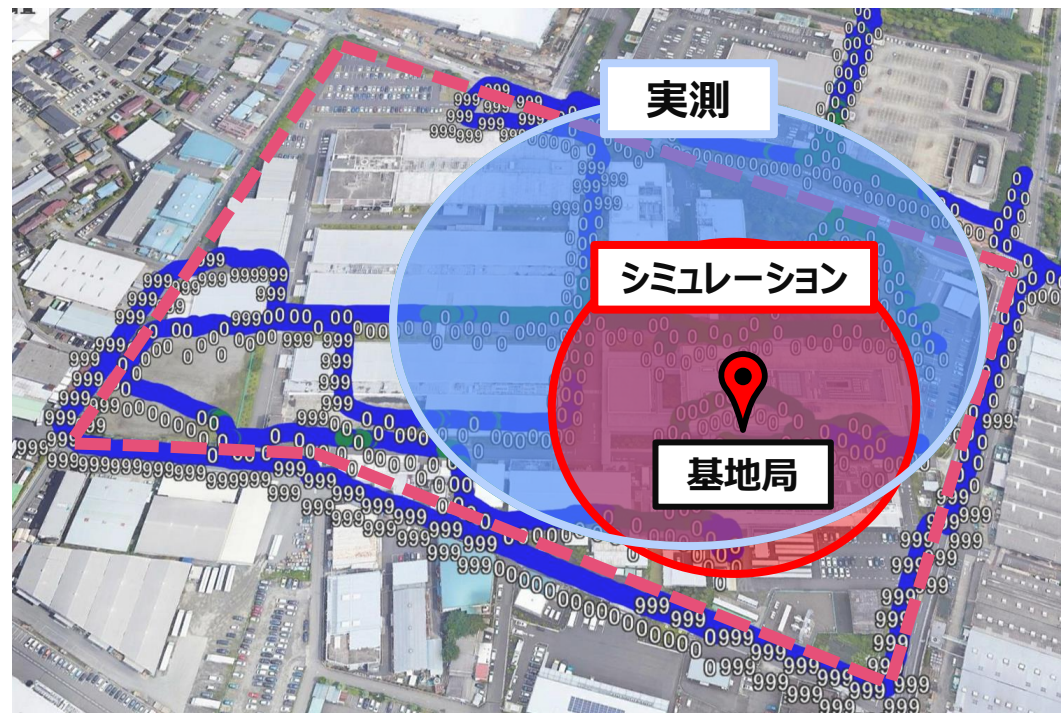
## 基地局エリアのシミュレーション、実測、および評価の支援を請け負い

総務省の「令和3年度 課題解決型ローカル5G等の実現に向けた開発実証」事業（国プロ）の参加プロジェクト（複数）からローカル5G関連の受注を獲得

シミュレーション結果例



実測例



エリアテスタ  
ML8780A/81A

■ カバーエリア    ■ 調整対象区域（エリア間の緩衝領域）

2022年1月4日、株式会社高砂製作所はアンリツグループの一員となりました。今後、同社が保有する高精度、高安定、高効率電源技術・充放電試験装置によるバッテリー評価技術・電力回生技術などのコア技術に、アンリツの「はかる」技術を融合させ、EV、電池の測定市場開拓を加速していきます。



アンリツ株式会社 代表取締役  
社長 グループCEO 濱田 宏一

日本電気株式会社 代表取締役  
執行役員社長兼CEO 森田 隆之



**Anritsu**  
Advancing beyond

